

ゲルマン語における子音省略について (1)

Über das Weglassen des Konsonanten im Germanischen (1)

鹿見嶋 繁雄

桐蔭横浜大学法学部

2009 年 9 月 15 日 受理

0. 江戸時代に、ロシアは「おろしゃ」といった。この「お」を「修飾としての前打音」(Vorschlag)という。同様にラテン語(以下Lと略記:以下同様)stella「星」は、スペイン語 estella、フランス語(Frz) étoile、現代ドイツ語(NHD)Stern、英語(E)star。ロマンス語系では、前打音 e を挿入、フランス語ではさらに s を省略している。

この「s 音省略」はゲルマン語においても存在する。例) (E)scratch「搔く」(NHD)kratzen 中期英語(ME)scratten,cracchen。(E)stroll「(人が)ぶらつく」troll「(古)……を朗々と歌う(話す)、(魚・場所を)(疑似餌で)流し釣りにする」。古高ドイツ語(AHD)skurz,kurz「短い」。

このような「s 音省略」を設定することによって、同じ意味をもちながら、音韻法則によって変更された姉妹語を確定し、多様な形態を単純な構成単位に還元できるのではないか。手元にある辞書で s- で始まる単語 ((E)285 ページ;(NHD)208 ページ対 (Frz)99 ページ) を調べると、(E)、(NHD) は、(Frz) と比較すると、2~3 倍多い s- で始まる単語が存在する。以下、印欧語・語根に遡ってその原因を検証する。

1. sk- 語根

(1) h- 語幹

①中高ドイツ語(NHD)schal(l) : (NHD)Schale,Hülse「外皮」、(E)shell<古英語

(OE)sciell,scell : (NHD)Schale,Muschel「貝」

「s 音省略形」 : (MHD)hal : Hülle「覆い」、Schale「外皮」

②(MHD) schal:(NHD)Schall「音」、(AHD)scal「s 音省略形」:(MHD)hal:Schall,Hall「響き」

③(MHD)scellen,schallen:(NHD)schallen「響く」、tönen「音をたてる」lärmen「騒音をたてる」

「s 音省略形」 : (MHD)hellen : (NHD)ertönen「鳴り響く」hallen「鳴り響く」sich rasch bewegen「さっと動く」(MHD)höl=(NHD)tönend「鳴り響く」laut「大声の」licht「明るい」

④(NHD)Scham「恥」(MHD)scam,schēm(e),(AHD)scama,(OE)sceamu,(E)shame(本来の意味は、「覆う」)ゴート語(Got)ga-hamôn「服を着る」、古北欧語(ANor)hamo「覆い、皮、死体」(AHD)lihin-hamo, li h-hamo, (MHD)li chhame「肉の覆い、肉の姿」(OE)lic-homa, (ME)lichame。

「覆う」が基本的意味であるので、(MHD)schēm(e)は、「恥、恥辱」だけではなく、「影、仮面」

をも意味する。Scham におけるこの語根は、(NHD)Schande「恥、不名誉」にも含まれている。m → n の変更は、d の前の唇音が歯音に変化することに由来する。

(Got)skanda,(AHD)scanta,(MHD)schande,(OE)sceōnd

「s 音省略形」:(NHD)Hemd「シャツ」、(AHD)hemidi,(MHD)hemede 本来は「長い下着」。(OE)heme þ e

- ⑤ (E)to scramble : (NHD) zerstückeln「切り刻む」zerfetzen「ぼろぼろに引き裂く」umherstreifen「あちこちうろつく」
 (E)to shamble : (NHD)komisch gehen「よろよろ（足を引きずって）歩く」、schlekern「ぶらぶら動かす（振る）」、スコットランド語 shamel shanks:(NHD)krumme Beine「曲った脚」
 (E)to hamble:(NHD)verstümmeln「(……の手足や体の一部分を) 切断する」、hinken「不自由な足を引きずって歩く」
 「s 音省略形」:(NHD)hamel : (NHD)abgehauener Stein「切り取られた石」、Klotz「丸太」、schroff abgebrochene Anhöhe「切り立った小丘陵」、Klippe「海中に突出した岩礁」(NHD)hamel:(NHD)Hammel「去勢された雄羊」。Hammel は、(NHD)Schaf「羊」Schöps「去勢された雄羊」と同じ基本的意味である。
- ⑥ アイスランド語 (IS)skarn, (OE)scearn, 低地ドイツ語 (NND)scharn:(NHD)Mist「堆肥」(隔離、投げ捨てられたもの)、サンスクリット語 (SKT)ava-skaras : Exkremente「排泄物」(複合語 : (NHD)Scharnbulle, (E)shard-beetle「糞虫」)。
 「s 音省略形」:(NHD)Harn「尿」は、本来「隔離する」の意味で、(E)scorn:(NHD)Hohn「あざけり」、Geringschätzung「軽蔑」も同じグループに入る。
- ⑦ (NHD)schûbe,schûwe : (NHD)langes und weites Oberkleid「長く、幅の広い上着」(NHD)Schaube : (NHD)Überwurf「マント」Hut「帽子」Haube「頭巾」。
 「s 音省略形」:(ANor)hûfa:(NHD)Mütze「縁なし帽子」、Kappe「縁なし帽子」、Schopf「頭髪」。
 (NHD)hûbe : (NHD)Haube「頭巾」、Helm「ヘルメット」(複合語 : Sturmhaube「(中世の歩兵の) 鉄兜」、Pickelhaube「プロイセンの軍隊での尖頂つき軍帽」を参照)。
- ⑧ (L)scûtum : (NHD)Schild「凸状で長方形（又は楕円形）の皮で覆われた木製の盾（重武装兵の身につける盾）」ギリシア語 (Gr)σκύτος : (NHD)Haut「皮膚」、Leder「皮革」、(Gr)σκύτον : (NHD)Haut「皮膚」、Rüstung「武装」、甲冑」。
 「s 音省略形」:(Gr)κύτος「盾、鎧の胸当ての窪み」、(NHD)Haut、(AHD),(NHD)hût「皮膚」。(OE)hyd,(E)hide「(牛・馬などの) 皮革」。(Gr) t → (ゲルマン語) d は第一次子音推移による。このグループに、(E)to hide, (OE)hydan「隠れる」も入るであろう。
- ⑨ シュヴァーベン方言 Schunke : (NHD)Schinken「(特に家畜の) 大腿」、(OE)sceone, 古フリースランド語 skunka : (NHD)Unterschenkel「下腿」。
 「s 音省略形」:(NHD)Hunke「骨」。Hunke と、(E)hunch「背中」「瘤」と (E)hunkered「弓なりに曲った」はおそらく同系であろう。
- ⑩ (NHD)schupfen : 「押すことによって前後・左右に動かす」、(NND)schuppen「振動」、前後・左右への運動」、(NND)schupfe「シーソー」、(E)to scup「前後・左右に揺れる」、(E)to skip「跳ぶ」。
 「s 音省略形」:(NHD)hupfen,hüpfen (E)方言 to hip。
 鼻音 m の挿入による (NND)humpeln「不自由な片足をひきずって歩く」、

(NHD)Schumpfe「愛人」(本来は踊り子?)もこのグループの一員か?

- ⑪ (AHD)scrīni(MHD)schrīn : (NHD)Kasten für Kleider,Geld,Kostbarkeiten「服・貨幣・貴重品用の箱」; Sarg「棺」Archivschrank「公文書保管戸棚」、(OE)scrīn,(E)shrine : Kasten「箱」、Lade「櫃」、Heiligenschrein「聖遺物匣」、Nische「壁龕」、Blende「寺院などの外壁の窓形装飾」、(ANor)skrīn、スウェーデン語(Schwed)skrin,オランダ語skrijn。

「s音省略形」:(Gr)κρῖνελιν:(NHD)sichten「吟味する」、sondern「えり分ける」unterscheiden「区別する」、entscheiden「決定する」、richten「(……を……へ)向ける」、(L)cernere「分ける」「区別する」「理解する」、(Got)hrains(AHD)hreini(NHD)rein(e) : (NHD)rein「清い」、lauter「混じりけのない」、klar「澄んだ」。Kluge(Lateinisches Etymologisches Wörterbuch)と Skeat (English Etymological Dictionary)は Schreinを(L)scrinium「卷子本やパピルス紙、手紙類を保存しておく円筒形の文箱」から派生させている。(L)scriniumという単語は、はるか極北の地に至るまで、様々なゲルマン語に普及したようであるが、ロマンス語においては殆ど現れない。イタリア語 scignio「引出し」「戸棚」、フランス語 écrin「宝石箱」。Schreinという単語は、特にドイツ語・英語における「峻別する」「分ける」という意味を考えると、また(Gr)κρῖνελιν「吟味する」、(L)cernere「分ける」においても、上記 Lateinisches Etymologisches Wörterbuchは、s-語根由来と規定している。同じ基本的意味はrein「清い」にも存在する。ライン・フランケン方言では、今日でも「挽かれた」(gemahlen)「篩にかけられた」(gesiebt)をreinは意味している。(L)で、「篩」はcribrum,(Fr)crible(OE)hriddel,hridded,(E)riddle,(AHD)rītara,(NHD)rīter。rītan「篩にかける」「清める」「吟味する」。このグループに、様々な語末音を伴って発展する語根 skrī「(特定の目的のため、道具などを特定の場所に)置く」を設定すべきであろう。

- ⑫ (AHD)scāf,(NHD)schāf,(OE)scēap,(E)sheep,(NHD)Schaf「羊」(>語根 skap「切る」)。

「s音省略形」:(Gr)κἀπιρως「猪」、(L)caper,(ANor)hafr,(OE)haefer「雄山羊」Ziegenbock (>語根 skap)。(NHD)Haberfeldtrieben「農民の民衆裁判」における Haber-fellとはBocks-fellで、罪人に山羊の皮を着せて引き回したことに由来。チェコ語 skopec「宦官」、(L)castratus。

(L)capo,(NHD)Kapaun「去勢した肉用雄鶏」、(Gr)κἀπιων,(L)scapere「引っ掻く」、(Gr)σκαπιτεριν,(L)capulare「切り取る」「折り取る」。

(2) k-語幹

- ① (ANor)skalli「禿頭」、(Schwed)skala「(皮・被覆などを)はぐ」「(うろこ状に)はげ落ちる」、(E)scall「ふけ」「疥癬」、scalled,scald「かさぶただらけの」。

「s音省略形」:(AHD)kalo,(MHD)kal,wes,(OE)calu,(E)callow「(鳥が)羽毛のまだ生えそろわない」「禿げた」。上記 Lateinisches Etymologisches Wörterbuchでは(NHD)kahl(E)callowは(L)calvus「毛のない」「頭髪を剃った」に由来すると規定している。

- ② (NHD)schuofe「液体を汲むための容器」「水桶」「平鍋」。

「s音省略形」:(NHD)kuofe「桶、樽」、Kufe「風呂桶」。

- ③ (NHD)scharben,scherben「細かく切る」、(E)scarf「(木材を)滑り刀継ぎにする」。

「s音省略形」:kērben「借金割り符(棒に金額を示す刻み目をつけ、縦に二分して貸し手と借り手が共に保存)に刻み目をつける」、(MHD)kerlich「小さく割った木材」(E)

to carve 「(石・木などを) 刻む」、(OE)ceorfan。

- ④ (MHD)schurz 「貫頭衣」、 「腰布」 (Schurz); 「エプロン」 (Schürze), (AHD)skurz, (OE)secort, (E)short 「短い」; (E)shirt 「シャツ」 > (OE)scyrte(scorti), (E)skirt 「(ドレスなどの) 裾」 「スカート」、(ANor)skyrta 「シャツ」 「下着」、(ANor)skorta 「……を欠く」、skortr 「(必要なものが) 欠けている」、skarör 「減った」。
- 「s 音省略形」: (AHD)(NHD)kurz, (ANor)kortr, デンマーク語 (Dän)kort, 古ザクセン語、古フリースラント語 kurt, (NL)、低地ドイツ語 (NND)kort。Kluge は (AHD)skurz を (L)curtus から捏造した (L)excurtus から派生させている。この捏造した (L)excurtus がほぼすべてのゲルマン語に浸透したのであろうか? 「s 音付加」形と「s 音省略」形が並立している、と考えるほうが合理的なのではないか?
- ⑤ (E)shock 「(麦・トウモロコシなどの) 刈り束」、(NHD)schoc,schoch 「(物を積み上げてできた) 山、堆積」 「(植物・毛髪・羽毛などの) 小さい束」、Schock (昔の数量単位:60 個)、(NHD)schoche 「積み重ねた束になった干草」、(E)cock 「(干草などをかき集めて) 丸く積み上げた山」 「上にそらせた帽子の縁」。
- ⑥ スコットランド語 scrack 「がらがら (カーニバルなどに用いる玩具)」; 「s 音省略形」: (E)crake 「がらがら」 「鶉水鶏」。
- ⑦ (E)to scrawl 「(……で) 充満している」 「(虫が) 這うような文字で書く」; 「s 音省略形」: (E)crawl 「這う」 「(虫などで) うようよする」 「ゆっくり進む」、オランダ語 (NL)kraweln 「(虫などが) ガサガサ動き (這い) 回る」 (krabbeln)。Skeat は、(L)ex-, 古フランス語 es- から派生した接頭辞 s を設定している。
- ⑧ (E)scrag 「羊の下等な首肉」; 「s 音省略形」: crag 「首筋」 「(去勢された) 雄羊の首の肉」; craw 「甲状腺」 (w > g; オランダ語 kraag 「首」); (NHD)krage 「首」 「首の覆い」 「立ち襟」、(NHD)Kragen 「衣服の襟」。
- ⑨ (E)scratch 「搔く」、 「搔き傷をつける」、中世英語 (ME)skratten。「s 音省略形」: (NHD)kratzen, (Schwed)kratta 「熊手で掃き清める」 「搔き取る」、アイスランド語 krotta 「分かれる」。(E) scratch の -ch について Skeat は、(ME)cracchen との規定しているが、語頭音は (L)ex-, 古フランス語 s ではない。cracchen は (NHD) kratzen の二次的形態 (NHD)chraken に対応している。(Grimm,WB.,5,2075)。
- ⑩ (NHD)schrank 「棚」 「格子」 「(十字に) 交差させる」 「巻くこと」、(NHD)schranken 「脚を斜めにして歩く」 「(激しく) 揺れる」、(NHD)schrenken 「十字に斜めに置く」 「斜めに置く」、スコットランド語 scranky, (E)scraggy 「痩せこけた」 「骨ばった」 「(岩など) ごつごつした」; 「s 音省略形」: (OE)cranc 「曲がった」 「弱った」 「死に掛けている」、(E)crank 「ぐらぐらする」 「がたがたする」 「不安定な」; (NHD)krank 「病気の」、(OE)crincan, cringcan 「致命傷を受けた者のように身をよじる」 「戦闘で死ぬ」、(ME)crenchen, crengen 「曲がる」 「曲げる」、(E)to cringe 「(恐れて) しり込みする」 「腰をかがめてあいさつする」 「這う」。スコットランド語 crank は 「病気の」 「長患いで回復の見込みのない」 「弱った」 を意味している。基本的意味として共通して 「曲がった」 「ねじ曲がった」 「気の狂った」 「斜めの」 が現れる。この基本的意味から転用され、「まっすぐなもの、肉体的に正常なものからの逸脱」 また 「精神的な逸脱」 を意味する。名詞として (E)crank は 「風変わりな考え (言い回し・行動)」 を意味する。よって、krank,crank は schrank の 「s 音省略形」 の語幹から由来している。
- ⑪ (E)to scream 「金切り声で叫ぶ」 「(門・戸が) キーキーいう」、(E)to shriek 「(鳥などが)

甲高い声で鳴く]、「(人が) 金切り声で叫ぶ」、「悲鳴をあげる」;「s 音省略形」(E)creak「キーキー鳴る」、「軋む」、(NHD)kreisch「叫び声」、「恐怖の叫び」(NHD)kreischen「(恐怖・怒りのあまり) 金切り声 (悲鳴) をあげる」。

- ⑫ (NHD)schrî,schrei「叫び」、「(郭公・梟・烏などの) 鳴き声」、「噂」。(NHD)schrîen「叫ぶ」、「呻く」、「知らせる」、デンマーク語 (Dän)skryd「叫び」、「大声でわめくこと」(Dän)skryde「叫ぶ」、「いばる」;「s 音省略形」(NHD)krîe,krî「関の声」、「噂」(NHD)krîen「叫ぶ (特に関の声を)」(E)cry「(苦痛・怒り・喜びなどの) 叫び」。語源辞典で、(E)cry の原義は、(L)quiritäre と規定している。(L)quiritäre は「不法な行為に対して声高に抗議する」、「公の席で叫ぶ」「市民に訴える」を意味する。Quiritês とは、「サビーニー人の町 Cures の住民」、「平和時に民会などで呼びかけられた、市民服を着たローマ市民の総称 (呼称)」。そこから (E)cry は、「ローマ市民に援助をもとめて叫ぶ」から由来していると、説明している。(E)cry と直接繋がっている (Frz)crier「叫ぶ」、「泣きわめく」を (L)quiritäre と比較すると、(L)qui- → (Frz)c- への変化は音韻変化としては正しい。しかし、ゲルマン語における s- を有する「動物 (的な) の叫び」と (L)quiritäre「ローマ市民への援助の叫び」から由来したと、語源辞書が説明している (E)cry とは、意味が離れ過ぎているのではないか。

- ⑬ (NHD)schrimpfen「皺になる」、(E)shrimp「縮む」、(E)scrimp「……をひどく制限する」、「切り詰める」。「s 音省略形」:(NHD)krimpfen「曲がる」、「ひきつるように縮む」、(E)crimp「(布・板金・ボール紙などに) 皺をつける」。ここにはさらに h- 語幹が加わる。(AHD)hrimfan, (OE)hrimpan, (ME)rimplen,(E)to rimple「……に皺を寄せせる」、「しわくちゃにする」、「折り目をつける」。これらと並んで、(NHD)schrimpfen「皺になる」と同じ意味で h- を省略した、(AHD)rumpel, (NHD)rimphen, (NHD)rümphen「(顔の一部を) ゆがめて皺をよせる」が存在する。

この同じ語根には、母音交替をともなった (NHD)Krampf「(筋肉の) 痙攣」、krumm「曲った」も入るであろう。(NHD)krumm, (AHD)chrumb, (NHD)krump, (OE)crumb, (E)crumb「曲った」、(E)crumble「粉々になる」、「(家・壁・崖などがしだいに) 崩壊する」、(E)crimble「(輪状・環状に巻いた小さな) もの」、「(布・衣服・紙などの) 折り目」。

- ⑭ (NHD)schrill「甲高い」、「けたたましい」は、低地ドイツ語 (NDD)schrell「辛い」、「耳をつんざくように鋭い」を借用。本来 sch- ではなく ch-:chrill「辛い」、「(寒さ・痛みが) 刺すような」で、その後「音が刺すような」の意味に変化した。(E)shrill は、以前「刺し通す」、「刺すような」、「辛い」を意味し、現代では「甲高い」、「けたたましい」を意味するようになった。

「s 音省略形」:(MHD)grel,grelle「(鳥獣が) 爪で傷つけるもの」、「刺すもの」、「(植物の) とげ」、「フォーク」。(MHD)grêl「粗い」、「甲高い」、「怒った」。g → k への軟化は、Grippe「(沼沢地の) 排水路」→ Krippe「(アレマン語) 蛇籠」、krippen「蛇籠で土手を補強する」で説明できる。

- ⑮ (NHD)schriben, (AHD)schriban「書く」;「s 音省略形」:(NHD)kribeln「搔く」、「書き散らす」。Kluge は相変わらず (L)scrîbere「するどい (尖った) 切っ先で引っ搔く」由来と規定している。これでは、(OE)scrifan, 古ザクセン語 scrîban, 古フリースラント語 scrîva, (ANor)scrifa, (NL)schriewen における [v] 音が、何故 (L)[b] 音から派生したか、を説明できない。さらに、借用語が強変化することは、あり得るのであろうか。

印欧語・語根 skrîbh- を想定すべきであろう。帯気破裂音 [bh] は語中音として、母音 (ま

たは流音) と母音の間で摩擦音 [b,v] に、(L) と (NHD) では閉鎖音に移行した。よって、(NHD)schreiben は、(L) scribere からの直接の借用語ではない。

以下次号